

「海の出前授業」派遣レポート

都道府県 東京都

派遣先 科学技術館

授業タイトル 南極の海と氷から探る地球の謎 ～観測と生活を通して環境を考える～

講師名 牛尾収輝

派遣年月日 2021年9月19日（日）15:00-16:00

派遣者コメント

科学技術館サイエンス友の会メンバーおよび一般来館者向けに企画され、表題の講演を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加者は限定して募集され（対象は小学4年生以上）、27名（小学生：11名、中学生：3名、大人：13名）の皆さんは広い部屋（全天周投影ドーム）に集まっていたいただき、講師は職場からオンラインで参加しました。

主催者からの依頼で、当日の講演としては科学技術週間で配布された「一家に一枚ポスター 南極—地球の未来を映す窓—」とSDGsを絡めた南極海にまつわる内容の要望にお応えし、講演者の観測経験や研究バックグラウンドをもとに検討し、主催者と相談の上、南極海を主テーマとしました。長く継続されている南極観測について、最近の研究トピックも交えてスライドや動画を使って紹介しました。観測が現在の地球環境、特に南極海の特徴や役割を理解することにとどまらず、過去の地球を知り、将来予測にも貢献していることを中心に、多岐にわたる研究に携わることの大切さと魅力、さらに私たちの普段の暮らしの中で考えたい環境問題についても触れました。

質問コーナーでは研究や観測について、いろいろな観点で出していたいただいたご質問の内容からも、参加者の意識が高いことが伝わってきました。また会場には南極の氷（氷山水）や観測隊員が南極で使用している防寒衣類も展示され、参加者に見ていただくことができました。

オンラインでは伝えきれないこと、双方向のやり取りに限界があることなど、難しい点を改めて感じました。しかし、リアル会場とは異なるアウトリーチの在り方を考える機会ともなりました。